



新十津川町

概要

新十津川町は、少子高齢化・過疎化により路線バスの利用者は減少しており、将来、その維持が困難となることが懸念されているほか、一部地域では、1日1往復しかバスがないといった極端に公共交通が不便な状況が生じている。このため、住民の移動手段の確保や公共交通の利便性の確保を目的として、スクールバスや福祉バスへの一般住民の混乗、乗合タクシーの導入等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR札幌線(新十津川駅、下徳富駅、南下徳富駅、1日3本)
- ・(株)北海道中央バス(7路線)
- ・福祉バス(1台 毎日1方面)
- ・スクールバス(4台 3方面)
- ・石狩市の運行するバス(1日1往復)

地域公共交通の課題

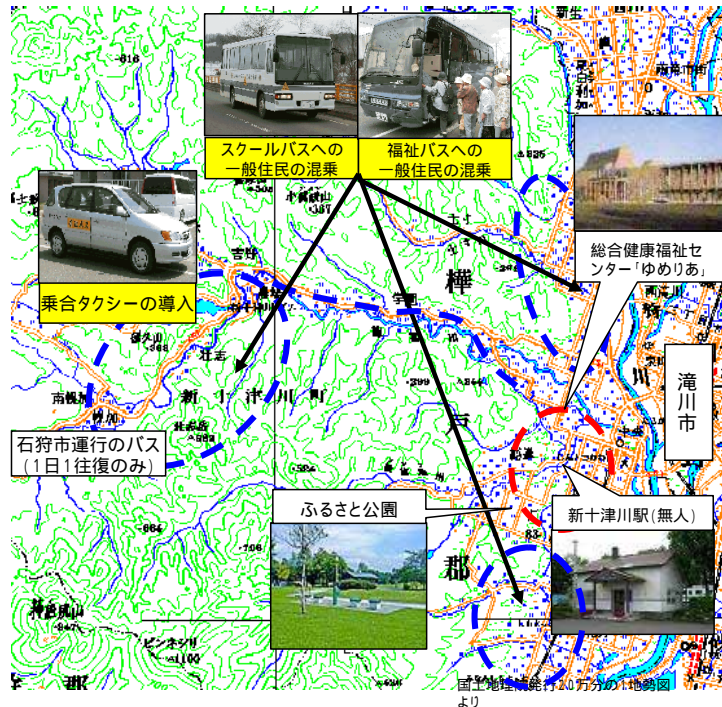
- ・路線バスの利用者の減少、収支の悪化
- ・公共交通が極端に不便な地域の存在
- ・スクールバス、福祉バスの活用
- ・生活経済の中心である隣接市へのアクセス

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・スクールバス、福祉バスの活用方策の検討
- ・乗合タクシーの導入方策の検討

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・スクールバス、福祉バスへの一般住民の混乗の検討
- ・乗合タクシーの導入の検討



新十津川町地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

協議会開催状況

4回開催

分科会等開催状況

コア会議2回開催

左記開催状況は
H21.1.30現在

主な調査の実施内容

現況交通実態調査

- ・各種統計資料による人口、世帯、地域特性等調査及びバス乗降人数等把握のため路線バス実態調査を実施。(H20.6~7月)
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・高校生以上の全町民を対象に地域公共交通に関するアンケートを実施。(H20.7月)

スクールバス、福祉バスの活用方策の検討

- ・スクールバス利用の保護者及び福祉バス利用者に対し、一般住民混乗とコミュニティバス化についてアンケートを実施し、協議会において、調査結果を踏まえたバス活用方策の検討を実施。

その他の調査等

- ・地域に適した交通システムをつくるため、学識経験者を講師に迎え、地域公共交通に関する講演会を開催。(H20.9.8 参加 72名)

予定している連携計画の内容

新たな公共交通の構築(実施主体:新十津川町・商工会・交通事業者、実施時期:H21~)

- ・地域特性にあったデマンド運行とスクールバスによる一部混乗運行、福祉バスとの連携により新たな町内公共交通を構築。

滝川市・砂川市中心部への連絡維持(実施主体:新十津川町・中央バス、実施時期:H21~)

- ・中心市街地から滝川市への輸送の確保及び砂川市と結びつきの強い花月市街地と同市間の輸送事業者を確保する。

まち中に賑わいを育むミニターミナルの整備(実施主体:新十津川町・商工会、実施時期:H21~)

- ・快適な待合スペースの確保のうえ、商店街情報提供スペース・サービスカウンター等を一体的に設置。

自己評価のポイント

バス乗降人数把握、全町民アンケート調査等により必要な調査を行うとともに、法定協議会においてコア会議の開催も行いながら合意形成を図っている。

二次評価のポイント

自己評価のとおり。